

※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。

ウイルス病は感染すると治療できないため早めの対策を!



症状が似ているウイルス病～えそ病・茎えそ病～

【えそ病(Tomato spotted wilt virus(TSWV))】



葉にえそ輪紋やえそを生じ、病徴が激しいと茎にえそ条斑を生じる。葉脈沿いに黄化症状が現れ、拡大し黄化枯死したり、生育不良となり草丈が低くなる。全身発病株では、茎の髓部に褐色のえそが見られる。出蕾期～開花期に病徴が顕著になりやすい。品種によりほとんど病徴を現さないものもある。
アザミウマ類(特にミカンキロアザミウマ)により持続伝搬され、管理作業に伴い伝染する可能性もある。



【茎えそ病(Chrysanthemum stem necrosis virus(CSNV))】



葉では退緑斑・えそ斑・輪紋・奇形等、茎では葉基部を主体とした明瞭なえそ症状や湾曲を生ずる。
症状はTSWVによるキクえそ病と酷似し、症状での判別は困難である。
ミカンキロアザミウマの若齢幼虫が罹病植物を食害することでウイルスを獲得し、成虫が持続伝搬を行う。親株から挿し穂に伝染するため、本圃での伝染源となる可能性が高い。



⚠ 防除チラシ掲載農薬は年間の通し回数をカウントしていません! ご自身の散布履歴に合わせて薬剤を検討してください! ⚠

時期	IRAC FRA C	対象病害虫	薬剤名	予防	治療	使用量・希釈倍数	使用 時期	回数
定植時	P02	白さび病	inochioキクツチャ粒剤	○	—	6～9kg/10a (作条土壌混和)	定植時	1回
生育初期	M03	白さび病	アントラコール顆粒水和剤	○	—	1000～2000倍	発病前～ 発病初期	6回
	1B	アブラムシ類・アザミウマ類・ フタバアザミウマ・ハダニ類	トクチオン乳剤	—	—	1000倍	発生初期	5回
消灯時	11	褐班病・黒班病・白さび病	メジャーフロアブル	○	○	2000倍	発病初期	3回
	6	アザミウマ類・ハダニ類・ オオハダニ・ヨトウムシ類	アフーム乳剤※	—	—	1000倍 (アザミウマ類:2000倍)	発生初期	5回
発蕾時	21A, 39	白さび病・アブラムシ類・ アザミウマ類・ハダニ類	ハチハチ乳剤	○	—	1000倍	発生初期	4回
	23	アブラムシ類・アザミウマ類・ハダニ類	inochioセイレーンフロアブル	—	—	2000倍	発生初期	3回
破蕾期	3	うどんこ病・白さび病	アンビルフロアブル	○	○	1000倍	発病初期	7回
	4C	アブラムシ類・アザミウマ類	トランスフォームフロアブル	—	—	1000～2000倍 (アブラムシ類:2000倍)	発生初期	3回

⚠ 地域の防除事例を基に作成しています(輪菊栽培)。品種、栽培条件によっては薬害が発生する場合があるためご注意ください。さらに、展着剤・葉面散布剤等を加用する場合もご注意ください。

※花き類・観葉植物登録

高温対策専用 バイオスティミュラント

炎天マスター

高温ストレスに遭遇する前に処理すると…
→**高温耐性のスイッチON!**

- ◎ HSF遺伝子の発現量増加
(高温に備える指令を伝える遺伝子)
- ◎ 活性酸素種(ROS)の除去
(ストレスを感じると増加し植物を傷つける物質)

500～1000倍
7～14日間隔
葉面散布

イノチオHDでは病害虫診断(ウイルス検査も)を行っています!

顕微鏡や検査キットを用いて、原因となる病原菌や害虫、ウイルスを検査します。**迅速・的確な診断**で、適した農薬や対策をご提案いたします。

見分けが難しいものや、早急な対応が必要な病害虫も多く存在します。誤った防除を行い、被害をが広がる前に、一度診断を受けてみてはいかがでしょうか?

詳細は各担当営業までお問い合わせください!

